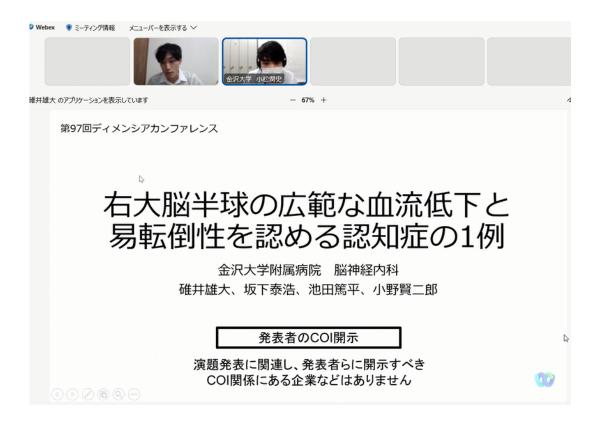
7月25日(火)に金沢大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ) 「第97回デメンシアカンファレンス」をWeb上で開催しました。

「右大脳半球の広範な血流低下と易転倒性を認める認知症の1例」のタイトルで、金沢大学からの症例報告で進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。

症例発表の様子とスライド



第 97 回 デメンシアカンファレンス 報告要旨

『右大脳半球の広範な血流低下と易転倒性を認める認知症の1例』

発表者:碓井雄大(富山大学附属病院神経精神科) 司会:小松潤史(金沢大学附属病院脳神経内科)

【要旨】

2017 年頃より意欲低下を自覚し、経過で易転倒性を主体とした手の使いにくさ、頻回な瞬目、喋りにくさ、もの忘れ、動作緩慢を認めた。診察では、認知機能・高次機能障害、前頭葉徴候、眼球運動垂直制限、人形の目現象陽性、開眼失行、仮面様顔貌、構音障害、動作緩慢、小刻み歩行、高度な姿勢反射障害を認めた。高次脳機能障害としては、純粋失書、構成失書、左肢節運動失行、構成障害、左皮膚書字覚障害、半側空間無視を認めた。頭部 MRIでは、両側頭頂葉・中脳被蓋部の萎縮、Dat-scanでは右優位の両側線条体集積低下、IMP-SPECTでは右頭頂葉・前頭葉付近の血流低下を認めた。入院中に Ldopa 製剤 600mg 投与したが、著変なかった。

進行性核上性麻痺(PSP)、大脳皮質基底核変性症候群(CBS)のいずれも疑わせる所見を認め、背景病理を基軸とした鑑別を行った。本例では、PSP-CBS(背景病理-臨床像)、CBD-PSPS(背景病理-臨床像)のいずれかを疑った。PSP-CBSでは、皮質徴候、進行性の非対称性失行に加えて、進行期には垂直性注視麻痺、姿勢反射障害が出現するとされる。一方で、CBD-PSPSでは、発症2年以内の易転倒性、姿勢反射障害、垂直性注視麻痺を認めるが、CBSに特徴的な大脳皮質徴候や左右差を欠く例が多いとされる。本例では、非運動症状発症から3年、運動症状発症から1年程度経過した後に易転倒性が出現し、衝動性眼球運動の開始遅延も目立ち、入院時点では、左右差のある皮質徴候もみとめながら、姿勢反射障害などのPSPとしての症候をはっきりと認めたことから、PSP-CBSを最も疑った。

【質問・意見】

質問:眼球運動障害の具体的な所見は?

回答:下転優位の垂直性眼球運動制限かつ人形の目現象は陽性であった。

質問: CBS にアミロイド病理が合併することが多いとされるが、本例におけるその可能性は?

回答:本例ではやはり CBS や PSP 主体の症候であるものの、近時記憶障害や海馬萎縮などの所見もあり、アミロイド病理が合併している可能性も否定できないと考える。



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第97回デメンシアカンファレンス(Web)

2023年7月25日(火) 18:30~

「右大脳半球の広範な血流低下と易転倒性を認める認知症の1例」

発表者:金沢大学附属病院脳神経内科 碓井雄大

担 当:金沢大学

対象:認プロ参加施設及びその他の施設の

医療関係者(医療系大学の学生含む)

【参加方法】 個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

- ・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、 認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営 事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに 従って会議にご参加下さい。
- 教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務 局が確認します。
- ・上記以外で参加を希望される方は7月24日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。

(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)